

青年海外協力隊事業が グローバル人材の育成に及ぼす影響

1155113 徳永健人 指導教員 藤掛洋子

【背景と目的】

世界のグローバル化が進展し、「ヒト・モノ・カネ・情報」の移動が容易となるとともにその流れは一層激しさを増した。様々な技術が高度化した現代の国際社会において、私たちの知識・能力・技術には更なる高度化、専門化、多様化など多くの変化が求められている。日本社会が今日の水準を維持するためには、いわゆる「グローバル人材」の育成が急務となっている。

筆者は JICA の無償資金協力事業の一環である青年海外協力隊 (JOCV) 事業に参画し、派遣された経験がある。JOCV を含む JICA ボランティア事業は日本政府の ODA 予算により、JICA が実施する事業である。隊員として得られた経験はいわゆる国家資格や点数で測ることができるような評価できるようなものではないが、その後の人生に大いに役に立つであろうものと期待される。私はここで培った経験そのものがグローバル人材の資質になりうるのではないかと捉えた。JOCV 事業がグローバル人材の育成にどのような効果を及ぼしているのか明らかにすることを目的とする。

【方法】

グローバル人材および JOCV 事業、本論文のトピックに関連する書籍や論文、報告書、ニュースリリースに基づいた文献調査

半構造インタビューの手法を用いた JOCV 隊員 20 名を対象とした聞き取り調査 (2014 年 11 月 9 日から 2014 年 12 月 26 日)

【結果及び考察】

グローバル人材の定義について各省庁や機関において独自に解釈され、目指す理念やニュアンスが多少異なっていることが明らかとなった。国家予算を投じて行われているグローバル人材育成事業の達成度合いも主に留学生数の増減や TOEFL の点数のみで判断されている。

本論文では、「グローバル人材」の定義は広く汎用されている内閣官房国家戦略室のグローバル人材育成推進会議の定義を採用した。その「グローバル人材」の概念を整理すると、3つの要素が含まれるものとしている。3つの要素とは、「語学力・コミュニケーション能力」、「主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感」、「異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー」である。

本論文での調査において、質問に対する回答より認

めることができる資質を統括すると、グローバル人材の要素として定義づけられている 3 要素をすべて満たしているものと考えられることができる。

結果から分かることとして、長期隊員と短期隊員との間に、獲得できる資質で多少の差異があることも認められた。インタビューを行った私の印象では、長期隊員のほうが技術的な資質や、問題解決能力、勘などがより洗練されているように感じたのである。短期隊員に認められたことは、異文化理解に対する素養とチャレンジ精神が大きく認められるということである。私が今回調査を行った短期隊員は、1名を除きすべての者が、学生の中に JOCV に参画した者であった。社会経験がない分、得るものは一見多いように感じたが、他の JOCV に比べて専門性や柔軟性というところで見劣りを感じたことは否めない。しかし、それでも人材育成に大きく貢献しているという点で充分評価できると私は評価する。

また、本研究に至る以前はグローバル人材の育成は近年提唱されるようになった事業であると筆者は想定し、調査に着手したが、先行研究より青年海外協力隊事業は半世紀以上前から「国際的涵養を備えた人材」、いわゆる今日の「グローバル人材」の育成を理念の 1 つに掲げて活動をしてきたことが明らかになった。また、その有効性についても多くの先行研究より明らかになっている。

【結論】

調査結果とその分析より、JOCV 事業はグローバル人材育成事業に寄与していると考えることが可能だ。寄与しているに留まらず、事業の発祥であるとも言えることができる。

現在、行政主導でグローバル人材の育成のために、高校や大学、企業が連携し、留学や教育プログラムの充実をはかる事業やプロジェクトが多くあるが、JOCV 事業を現行のプロジェクトに取り入れることによって、人材育成の成果を期待することも可能であろうと私は考える。大学連携案件や企業連携案件なども要請として多く採用されているがより一層拡充が図られることを期待する。

前述しているようにグローバル人材の定義は多岐にわたっており、その要素はあまりに広範である。今後、人材の定義が洗練され、要素が絞られる、もしくは明確な指標が導かれることも必要である。